

学会ハイライト

第33回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会 を終えて

(平成29年4月22日(土)、23日(日)、ANAクラウンプラザホテル神戸)

林部 一人

第33回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会会頭
日本臨床皮膚科医会理事/はやしべ皮膚科院長

はじめに

平成29年4月22、23日に、ANAクラウンプラザホテル神戸のほぼ全館を会場として本会を開催いたしました。今年は神戸開港150周年の記念の年でありました。加えてNHK「べっぴんさん」の放送や有名スポーツ選手の娘さんの宝塚音楽学校合格など神戸を取り巻く話題が豊富であったこと、さらに会期を通して天候にも恵まれたため、1,900名を超えるたいへん多数の先生方にご参加いただきました。ありがとうございました。また魅力ある

プログラム作成にご協力いただいた実行委員会、日臨皮近畿ブロック理事、兵庫県皮膚科医会幹事の皆様、神戸大学皮膚科学教室ならびに同窓会の先生方、皆様のご尽力に心より感謝申し上げます。とくに事務局長として熱く、ときに冷静に舵取りをいただいた尾藤利憲先生には心よりの労いと感謝を申し上げる次第です。

テーマ

実行委員会にてテーマを討議し、実行委員長、田村真吾先生ご提案の「ありふれた疾患の治療に



図1 特別講演「神戸大学コレクションー多様性を目指してー」：神戸大学皮膚科 錦織千佳子教授。

窮した時」といたしました。通常の治療に抵抗する、再発を繰り返すなど、日常よく遭遇する疾患ではありますが、次の一手がわからない、難治の理由が不明、このような状況に対してのエキスパートが下す判断を学ぼうと企画いたしました。

特別講演

神戸大学・錦織千佳子教授には「神戸大学コレクションー多様性を目指してー」の演題名のもと、色素細胞、メラノーマ、光線過敏症といった神戸大学伝統の領域を中心に症例を供覧いただき、ご専門の光線過敏症では遺伝子解析も含め、臨床と基礎の融合による患者治療の実態をお示いただきました。理化学研究所・統合生命医科学研究センター特別顧問の谷口克先生には「新しい概念のがん免疫療法」の講演をいただきました。HLAにとらわれないNKTがん免疫療法の理論のあと、その高い有効性を示す臨床治験データが報告されました。

医療経済学をも巻き込む昨今の癌免疫療法ではありますが、その将来にまったく異なる視点の治療が示されたことは集学的治療に大きな存在感を持つと考えられます。



図2 特別講演「新しい概念のがん免疫療法」：理化学研究所統合生命医科学研究センター特別顧問 谷口克先生。

セミナー・シンポジウム

各会場とも熱のこもった討論が行われ、若い先生方の活発な質問光景を目にいたしました。すぐにも実際の日常診療に活用できる知識や技術の討論とあって、エキスパートと若い世代の外来診察室での会話のように感じられたセッションもありました。日臨皮近畿ブロック各支部企画もたいへん好評で、懇親会前の時間帯であったことも影響し、会場は満席で立ち見の熱心な先生方も見受



図3 盛り上がった懇親会風景。



図4 エキスパートと若い世代の活発な討論のみられたポスター会場風景。

けられました。各セミナーに協賛いただいた企業の皆様にも深謝申し上げます。

懇親会

兵庫県皮膚科医会きっての才媛、名司会者である渡辺雅子先生の段取りでたいへんスムーズに開幕し、和やかな歓談と食事の時間が進みました。懇親会のメインイベントである「夢組」公演が近づくにつれ地鳴りのような声が床を震わせます。前に前にと熱気を帯びた先生方が参集され、渡辺先生の「さてこれから夢組公演を始めます」のお言葉の際にはすでに舞台を取り囲む何重もの人垣が形成されておりました。こういった舞台に慣れていない私は圧倒的な迫力と華麗な振る舞い、腹の底まで響くような音楽に浮揚感さえ感じたほどでした。公演終了後、舞台に上げていただき夢組の皆様と写真を撮らせていただきましたこと、感謝申し上げます。

ポスター賞

学会に参加いただいた先生方による投票・厳正なる審査の結果、次のように決定いたしました。おめでとうございます。いずれも日常の皮膚科診療と密接に関わるテーマが選ばれており、日本臨床皮膚科医会らしい素晴らしい発表でした。おしくも受賞を逃されたポスター発表者の皆様にも実行委員会を代表し御礼申し上げます。

金賞：爪乾癬を組織学的に診断するための生検のコツや留意点

種本紗枝，福田理紗，茶谷彩華，橋本玲奈，梅垣知子，齋藤昌孝（慶應義塾大学，皮膚科）

銀賞：患者用トイレの暖房便座を介した疥癬の集団感染

西原克彦，宮脇さおり，藤山幹子，田内久道，青野晴考，佐山浩二（愛媛大学，皮膚科，感染制御部）

銅賞：神奈川県皮膚科医会会員による顔面ざ瘡の治療に対するアンケート調査報告

高須 博，安藝良一，原 尚道，杉田泰之，野村有子，浅井俊弥，鎌田英明（神奈川県皮膚科医会）

実行委員会特別賞：靴と足のメンテナンスは足白癬に影響を及ぼすか？

笹川征雄（笹川皮膚科）

市民公開講座

会期中、23日（日）、神戸国際会館大会場にて「食習慣と皮膚：正しい食事がつくる驚きの健康美肌」をテーマに市民公開講座（無料）を開催いたしました。企画は実行委員・兵庫県皮膚科医会幹事の今泉基佐子先生にお願いいたしました。皮膚科学・栄養学などの科学的根拠にもとづく講演を聞けるとあって肌の健康に興味をお持ちのたくさんの市民の方々にご参加いただきました。健康的なイメージで販売されているドリンク剤やスポーツ飲料の血糖値や血管年齢に及ぼす驚くべき影響などもわかりやすく解説され熱気あふれる会場となりました。

裏 話

学会前日に意見交換会を開催させていただき、運営にかかわる諸問題解決へのご協力依頼ならびに各セッション内での打ち合わせをお願いいたしました。その日、予定時刻よりも少しだけ余裕をもってホテルに入り、部屋で着替えて原稿のチェックを考えると、チェックインしようとしたと



図5 会頭(中央), 事務局長, 実行委員長と日臨皮会長・常任理事の皆様。

ころ、私が学会関係者であることは認識したうえでフロント嬢は「規約でございますので〇〇時まではお部屋に入れません」といいます。心からの何度かのお願いも通用せず、仕方なく両手両肩に荷物を担ぎ、同ホテルのスポーツクラブに行き、シャワーを浴びました。そしてロッカーで着替えをすませ理事会に出席しようとドタバタ移動中、ホテル担当者が慌てて駆けつけ「予定していたのと別の部屋を用意したので荷物や着替えは取りあえずそちらの部屋に」と、やっと重たい荷物運搬から解放されたぞーと救われた思いで部屋に急行しました。理事会の途中、携帯電話がポケットにないことに気づき、会期を通しての大切な連絡用具がなければたいへんだと、自分の動線を順次バックし、慌てて入った部屋の床に発見、ほっとして汗だくで理事会に戻ると「本来の部屋の準備ができたので移動してくれ」との連絡。部屋の荷物の大移動はさすがにホテルスタッフにまかせ意見交換会の会場に向かいました。入口でご来賓に参加の御礼をしていると、結局、漠然と考えてきた挨拶をチェックする時間的余裕のないまま司会の事務局長、尾藤利憲先生の「それでは会頭の林部より一言、挨拶申し上げます」に至ってしまい

ました。壇上に立ったときの背中にべっとり汗で張り付いたワイシャツの冷たさ、昼過ぎからのホテルでの情けない心情にプラスされたこの冷たさは笑いとともに記憶に長く残ると思われます。嫁に話すと「背広の下のことです外からわからなかったから問題ない問題ない」とデリカシーなく笑い飛ばされてしまいました。

おわりに

テーマを決めた後、地味で根気と調整の必要なプログラム構成作業からはじまり、何度もの会議を繰り返し、実行委員会の皆様の総力で完結できました。この学会で討論された内容が持ち帰られ、明日からの診療に活かされてこそ学会を企画した真の意義がございます。イギリスなどの軍艦が日章旗を掲げ、21発の祝砲を放ち神戸開港を祝って150周年、ご参加いただいた先生方のお力で本学会での知見が神戸港から国中に放たれていくことを期待しております。最後に学会運営にご尽力いただいた運営企画会社・オフィス・テイクワン、ホテルスタッフ、すべての皆様に心よりの御礼を申し上げます。